

## 博士前期課程 日本語学専攻

### カリキュラム・ポリシー(教育課程に関する方針)

博士前期課程・日本語学専攻は、ディプロマポリシーに掲げる教育目的を達成するために、以下の方針のもとに教育課程(カリキュラム)を編成し、実施しています。

#### 1.教育内容

1. 日本語学専攻では、日本語学、日本語教育学の2コースを設け、学生のニーズに応じて、言語の構造・実態に関する研究や日本語の習得・教育に関する研究を行うことにより、高度な専門性と能力を育成するよう指導を行います。専門分野に関わる研究科目(言語研究科目群・言語教育研究科目群・言語文化コミュニケーション研究科目群)、演習科目(言語科学演習)、技術系科目(統計処理法、教育実習)を設置しています。これらの学修を通して、日本語と日本語教育・コミュニケーションに関する幅広い専門知識と研究課題遂行力だけでなく、論理的思考力、総合的思考力、コミュニケーション能力、高い倫理性と責任感が育成されるよう指導を行います。
2. 1年次の複数教員による指導(演習科目)、2年次の1名の指導教員による指導(修士研究)を通して、学生が修士研究を行い、その結果をもとに論文または研究報告を作成するための指導を行います。学生は自己の研究について発表する機会が複数回(演習での発表、セミナー発表、中間発表、ポスター発表)与えられます。
3. 日本語教育分野は、研究科目(日本語習得、日本語教育学、日本語教育教材、日本語教育文法)に加えて技術系科目(日本語教育実習)を設け、教育現場への応用力と実践力も育成します。
4. 非日本語母語話者に対しては、日本語アカデミックライティングを設け、授業のためのレポートや修士論文(修士研究報告)を作成するために必要な日本語論文ライティングの指導を行います。

#### 2.教育方法

1. 日本語学専攻では、授業は講義、研究演習、実践演習、プロジェクトなど様々な形態で行われ、演習以外の多くの授業でも協働学習やアクティブラーニングが取り入れられています。
2. 2年次の修士研究の指導は、専門分野の相応しい教員により主に個別指導方式で行われます。学生は自己の研究プロジェクトを発表する機会(演習での発表、セミナー発表、中間発表、ポスター発表等)が複数回与えられます。

#### 3.学修成果の評価方法

1. 各授業科目における達成度の評価は、シラバス等によりあらかじめ示した成績評価方法・基準に基づき、客観的かつ厳格に行います。また、各学生の授業科目の履修状況、成績取得状況、研究の進捗状況等を定期的に確認し、指導への連携を図ります。
2. 修士論文、修士研究報告においては、複数の審査員が、以下の評価基準に則り総合的に判断し、評価します。

○修士論文

- 1) 明確な問題意識に基づきテーマが設定されていること
- 2) 構成が適切に組み立てられ、論旨が明快であり、明晰でわかりやすい文章で書かれていること
- 3) 当該分野の研究を十分に理解し、適切な検討を加えていること
- 4) 適切な方法で研究資料を収集し的確な分析・考察がなされていること
- 5) 学術的な独創性・重要性があること
- 6) 研究者としての研究倫理を身につけていること

○修士研究報告

- 1) 明確な問題意識に基づきテーマが設定されていること
- 2) 構成が適切に組み立てられ、論旨が明快であり、明晰でわかりやすい文章で書かれていること
- 3) 当該分野の研究を十分に理解していること
- 4) 研究者としての研究倫理を身につけていること

## Curriculum Policy

The Master's Program has as its mission helping teachers—both in-service and pre-service—to become reflective practitioners who can make pedagogically sound decisions about their classroom practices based on a well-articulated understanding of current theories of language and second language learning and teaching. Recognizing the diversity and complexity of today's classrooms, this degree program aims to help teachers develop an extensive repertoire of instructional methods and strategies as well as the professional knowledge and skills to enable them to take appropriate action to address the learning needs of their students. Furthermore, the program aims to provide a solid foundation for long-term teacher development by helping cultivate the habit of self-observation and self-evaluation. Graduates of this program will be self-directed language professionals well-prepared to take a leadership role in the community of TESOL teachers. In furtherance of this mission, the following curriculum specifications are provided:

### 1. Curriculum Content

- The curriculum is divided into the following categories: *TESOL Methodology; Practicum and Classroom Observation; Language Analysis, Acquisition and Assessment; Electives; and the MA Research Project*. Together, these categories provide an exploratory space for student-teachers to not only learn about current principles, practices, topics, and issues in the field of TESOL but also to evaluate their relevance to particular educational settings and adapt them in response to the varied and evolving needs of learners and institutions.
- Reflective practice is a priority across the curriculum, providing an entry

point for problem-solving, pedagogical innovation, and self-evaluation.

Reflective techniques are modeled in the two compulsory practicum courses, where student-teachers have an opportunity to identify pedagogical issues, try out new techniques, observe other teachers, receive feedback, and assess their teaching.

- Emphasizing the intersection between principles and classroom practice, courses throughout the program include a focus on application and implications for the classroom. This includes linguistics-oriented courses on topics such as phonetics and phonology and second language acquisition.
- Acknowledging the value of both a broad and specialized understanding of TESOL principles and practices, the *TESOL Methodology* curriculum category offers a foundational course as well as various workshop-style courses on a diverse range of methods, topics, and issues in TESOL. These offerings and other elective courses allow students to delve into areas of specific interest, encouraging deeper exploration and specialization.
- To support teachers in developing the disciplinary skills and abilities needed for participation in an academic community of TESOL practitioners, guidance in these areas is embedded in milestone assignments in designated courses throughout the program. These assignments are coordinated at the program level and aligned with the capstone assignment (The MA Research Project) to ensure that skills and abilities are systematically and incrementally developed throughout the program.

## 2. Curriculum Methodology

- To support student-teachers in their reflective journey and enable them to benefit from the diverse perspectives of others, the program emphasizes active learning approaches that prioritize dialogue, interaction, and collaborative problem-solving.
- In response to the diverse needs of teachers throughout Japan, a choice-based course delivery system is used. Teachers can choose to take all their courses online or a combination of in-person and online courses.

### 3. Assessment Methods

- Student performance is assessed based on *a priori* criteria detailed in course syllabi. Key outcomes for required courses are referenced to program diploma policy statements.
- Individual student growth and performance are routinely monitored and results are used to inform program evaluation and development.

## 博士後期課程 言語科学専攻

### カリキュラム・ポリシー(教育課程に関する方針)

博士後期課程・言語科学専攻は、ディプロマポリシーに掲げる教育目的を達成するために、以下の方針のもとに教育課程(カリキュラム)を編成し、実施しています。

#### 1.教育内容

1. 言語と言語教育に関わる専門分野の特殊研究、特論演習の科目を設置し、これらの分野で、国際的に活躍できることも視野に入れて、自立した専門分野の研究者及び指導的人材を育成するために指導を行います。修士課程で培った研究課題遂行力、論理的・批判的思考力、専門的コミュニケーション能力、幅広い専門知識、研究への責任感と高い倫理性を深化させることを目指します。

#### 2.教育方法

1. 各学生が取り組む研究課題に関する専門分野の学修および研究については、学生の研究課題に最も相応しい専門分野の指導教員により指導を行います。毎年次、その専門分野の特論演習(論文指導演習)を履修させ、学修および研究を計画的に進めるために、指導教員が指導を行い、専門家としての能力を育てます。
2. 2年次の初めに博士論文作成研究計画書を提出させます。研究の状況により半年後に再提出させます。この計画書の作成については、特論演習担当教員2名により指導を行い、研究課題遂行力、論理的・批判的思考力、専門的コミュニケーション能力、幅広い専門性の育成を支援します。
3. 博士論文を提出するには以下の条件を満たしていなければなりません。1)所定の年限在学し、2)語学試験に合格し、3)所定の授業科目の単位を修得し、必要な研究指導を受け、4)一定の研究業績があること。
4. 博士論文を提出するには、草稿を提出し、審査に合格しなければなりません。草稿の合格後1年以内に本論文を提出しなければなりません。退学後に博士論文を提出場合には、退学時に研究報告(論文)を提出し、審査に合格しなければなりません。合格の場合、退学後3年以内に博士論文を提出することができます。

#### 3.学修成果の評価方法

1. 各授業科目における達成度の評価は、シラバス等によりあらかじめ示した成績評価方法・基準に基づき、客観的かつ厳格に行います。また、各学生の授業科目の履修状況、成績取得状況、研究の状況等を定期的に確認します。
2. 博士論文においては、複数の審査員が、以下の評価基準に則り総合的に判断し、評価します。
  - 1)明確な問題意識に基づきテーマが設定されていること

- 2)構成が適切に組み立てられ、論旨が明快であり、明晰でわかりやすい文章で書かれていること
- 3)当該分野の研究を十分に理解し、適切な評価を下していること
- 4)適切な方法で研究資料を収集し的確な分析・考察がなされていること
- 5)研究者としての研究倫理を身につけていること
- 6)専門分野における十分な知識を有していることが示されていること
- 7)自立して研究を遂行できる能力を示していること
- 8)学術水準や学際的観点から見て、十分な独創性や重要性があり、学術的・社会的な要請にも応えるものであること